

第104回日本精神神経学会総会

シンポジウム

リエゾン精神医学との接点

加茂 登志子（東京女子医科大学生涯女性健康センター）

コンサルテーション・リエゾン（CL）精神医学は20世紀後半から精神腎臓学，精神腫瘍学，移植精神医学などユニークな専門領域を生み出しつつ発展した学問であり，総合病院というステージにおいて生成するあらゆる精神医学的，心理学的事象を非精神科と精神科の連携に関連するテーマとして抽出してきた。しかしながら産婦人科と精神科の連携がCL精神医学の場で俎上となる機会は非常に少なかった。その理由としては，ひとつには，産後うつ病，産後精神病などの概念がCL精神医学成立前からひとつの特徴ある精神疾患としてすでに確立していた点，もうひとつには，更年期におけるうつ病とうつ状態のように産婦人科，精神科がそれぞれが独自の視点と見解をもって一つの病態にアプローチしてきたという歴史が

あろう。女性精神医学や女性心身医学が扱う分野は，CL精神医学の一分野の範疇を超えた某大な課題を抱えている。精神医学全体を性差という観点から360度見直すという作業が必要だからである。やや逆説的な言い回しになるが，産婦人科学においても現在この作業が必要とされているように思われる。精神医学に限らず，医学のモデルが一般的に中立的な性，あるいは男性をイメージしてきたことも，女性に関する課題を多く積み残してきた要因となっただろう。CL精神医学で培われた臨床・研究の様々な方法論は今後の女性精神医学の発展のためには極めて重要であり，大いに援用できる。協働，チーム医療，そして学際的な関心と目的を持った新たな一分野の確立である。

（この論文は抄録集より転載しました）